



3. ペダル内のプリセットのひとつとして保存する場合

ペダルにロードされるプリセットは、(手順 2 の方法で) ロードする前にソフトウェア内の待機中のメモリー領域に保存されている必要があります。これらのプリセットをペダルにロードするには、まず STORE TO PEDAL をクリックしてから、ロードしたいプリセットの番号ボタンをクリックし、もう一度 STORE TO PEDAL をクリックします。この操作の後、プリセットはペダル内に保存されます。また、このプリセットはペダルからソフトウェア上書き戻すこともできます。

7. プリセットの呼び出し

プリセットはペダル本体またはソフトウェア上で呼び出す（ロードする）ことができます。

1. ペダル本体の場合

ペダルの UP または DOWN のボタンを押して、ペダル内に保存されている 12 種類のプリセットを順次選びます。ディスプレイには、呼び出されているプリセットの名前が表示されます。

2. ソフトウェア上の場合

ソフトウェア上でプリセットを呼び出すにはいくつかの方法があります。

- PRESET FILES リスト (ソフトウェア・ウィンドウの左側にあります) に表示されたプリセット名をダブル・クリックします。
- プログラム内で待機中のプリセットを呼び出すには、プリセット・ナンバー・ボタン (1 ~ 12) の中の 1 個をクリックします。待機中のプリセットを選択すると、そのプリセット・ナンバーのボタンが青色に変わります。
- READ FROM PEDAL ボタンをクリックして、ペダルから書き戻す 1 個あるいは複数のプリセットを選択します。

注意：ペダルから書き戻したプリセットは、ソフトウェア内に保存されている待機中の (同じ番号の) プリセットに上書きされます。

8. ペダルのイニシャライズ

工場出荷時の設定を復元する場合には、ペダルをイニシャライズする必要があります。そのためにはまず、電源アダプターのケーブルをペダルから抜いて、ペダルの電源をオフにします。そして、TRUE BYPASS スイッチを押したまま、電源アダプターのケーブルをふたたび接続します。すると、ペダルのディスプレイに "INIT" の文字が表示され、あなたがペダルに保存した 12 個のプリセットが、不揮発の予備メモリーに保存されている工場出荷時の 12 のプリセットに置き換わります。

マークベース・ペダル・コントローラー・ソフトウェア (Markbass Pedal Controller Software) の入手方法について

■マークベース社のウェブサイト (<http://www.markbass.it>) にアクセスしてください

■ "PRODUCTS" をクリックして、製品紹介ページにいきます

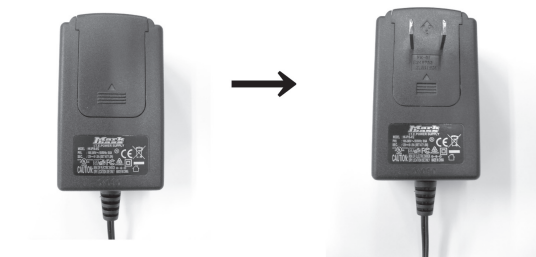
■下にスクロールして、EFFECT PEDALS より、ご購入いただいたエフェクター (CHORUS FLANGER または RIVERBERO または SUPER SYNTH) をクリック

■製品の詳細ページが開きます。DOWNLOADS のタグを開き "SOFTWARE" の "MARKBASS PEDAL CONTROLLER" をクリック

■ Windows 用または MAC 用のソフトウェアをダウンロードします
■ダウンロードしたソフトウェアをインストールしてください

AC アダプター付属品のお取扱いについて

■ AC アダプター本体に、100V 日本向けコンセント用のアダッチメントを取り付けて、ご使用ください。



Markbass 日本総代理店：パール楽器製造(株)

〒276-0034 千葉県八千代市八千代台西10-2-1

TEL: 047 (484) 9111 (代) 営業部 TEL: 047 (450) 1113

改良のため予告なく仕様の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。

2015年12月作成

Markbass SUPER SYNTH



取扱説明書・コントローラー説明書



取扱説明書

1. 安全に使用していただくために

- この取扱説明書をよくお読みください。
- この取扱説明書を無くさないでください。
- 注意事項をよく守ってください。
- 説明に従って操作してください。
- 本器を水の近くで使用しないでください。
- 本器の清掃には乾いた布以外使わないでください。
- 本器の設置は説明書に従って行ってください。
- 暖房機や電熱器、ストーブなど、熱を発生する機器（アンプも含む）の近くで本器を使用しないでください。
- 電源ケーブルを踏んだり強く折り曲げたりしないでください。特にプラグやケーブルの根元には注意してください。
- AC アダプター等アタッチメントやアクセサリは、メーカーが指定したものだけで使用してください。
- 雷が鳴っている時や長期間使用しない時などには、電源から機器を外しておいてください。
- 全ての修理は資格のある技術者に依頼してください。修理は、電源ケーブルが損傷したり、機器の上に液体をこぼしたり、機器の中に異物が侵入したりして機器が壊れた場合、あるいは、機器が雨や湿気にさらされたり、正常に動作しなくなったり、機器を落下させたりした場合に必要となります。
- 注意：発火や感電の危険を避けるために、本器を雨や湿気にさらしたり、花瓶などの液体の入った容器を本器の上に置いたりしないでください。
- 電源のコンセントは機材に近い、手の届きやすい場所に設置してください。
- 修理を始める前にコンセントから電源ケーブルを抜いておいてください。

2. はじめに

Markbass Stereo SUPER SYNTH のご購入、おめでとうございます！

このペダルは、あなたのペースをシンセサイザーに変身させます——サウンドはクールで、トラッキングの遅れもありません！ また、このペダルはオクターブ上や下の信号を生成する、デジタル・オクターバーとしての機能も持っています。どのエフェクトが呼び出されているかは、視認性の良いディスプレイでいつでも確認できます。ペダルにプリセットされたサウンドのパラメーターは、Markbass Pedal Controller ソフトウェアによるエディットが可能です。ソフトウェアは、www.markbass.it のこのペダルの製品情報ページからダウンロードできます。ソフトウェアをインストールしてペダルとコンピュータを USB ケーブルで接続し、好みに合わせてプリセットをエディットしてデータをペダルに書き込んでください。

私たちの他のペダルと同様、本器もトゥルー・バイパス機能を備えています。つまり、エフェクトを“オフ”にした時には入力と出力が直結されるので、音質が損なわれることはありません。

この取扱説明書は、このペダルを最大限に利用していただくためのものです。Markbass Stereo SUPER SYNTH をご購入いただきまして、改めて感謝すると共に、本器をご愛用いただけるよう、願っております！

3. 機能の概要

GAIN ノブ①—— 楽器の入力レベルを -10 ～ +16db の間で調節します。

CUT FREQ/OCT-1 ノブ②—— Synth モードでは、70Hz ～ 1.4kHz の範囲でカットする周波数を調節します。Octaver モードでは、オクターブ下（原音の 1 オクターブ下）の信号レベルを調節します。

TONE/OCT+1 ノブ③—— Synth モードでは、ファクトリー・プリセットのオシレーター の Detune、Amp、Pan の組み合わせ 7 種類①～⑦と、ユーザー・プリセット 1 種類⑧を選択します。Octaver モードでは、オクターブ上（原音の 1 オクターブ上）の信号レベルを調節します。

LEVEL/DRY ノブ④—— Synth モードではペダルの出力レベル、Octaver モードでは、ドライ信号（原音）のレベルをそれぞれ調節します。

PRESETS スウィッチ⑤—— ペダルに保存された 12 種類のプリセットを順に選択します。

TRUE BYPASS スウィッチ⑥—— エフェクト・オンとバイパス（エフェクト・オフ）を切り替えます。エフェクト・オンの時には LED が点灯します。

注意：このスウィッチは、ソフトウェアによる設定変更を全てキャンセルして工場出荷時の設定を復元する時にも使用します。出荷時の設定を復元するには、このスウィッチを押しながらペダルに電源を接続します。
 ＊ True Bypass（トゥルー・バイパス）—— ペダルをオフにすると、信号経路は入力端子から出力端子に直結され、音質の劣化を防ぎます。

SYNTH/OCTAVER スウィッチ⑦—— このスウィッチで、Synth モードと Octaver モードを切り替えます。

ディスプレイ⑧—— このディスプレイで、現在呼び出されているエフェクトが簡単に確認できます。

4. 接続端子

1/4 インチ標準入力端子⑨—— 楽器の出力に接続します。接続作業を行う時には、アンプの電源がオフでボリュームも最小になっていることを確認してください。

1/4 インチ標準 LEFT/MONO 出力端子⑩—— エフェクターをモノラルで使用する時の出力端子です。また、両方の出力端子にケーブルが接続されている時には、ステレオ左チャンネルの出力端子として動作します。

1/4 インチ標準 RIGHT 出力端子⑬—— エフェクターをステレオで使用する時の右チャンネルの出力端子です。

CONTROL 端子⑫—— この USB 端子にコンピュータを接続し、Markbass ソフトウェアでエフェクトのパラメーターを変更し、お気に入りのプリセットをいつでも呼び出せるように、エフェクター内に保存することができます。プリセットの設定方法とコンピュータへの保存方法については、ソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

DC 入力⑪—— 12V DC の外部電源（550mA 以上の容量が必要です）を接続します。

5. Markbass ペダル・コントロール・ソフトウェア

SUPER SYNTH ペダルをカスタマイズするには、www.markbass.it の製品ページからダウンロードしたソフトウェアをあなたの Mac か PC にインストールして、コンピュータとペダルを標準の USB ケーブルで接続する必要があります。

ソフトウェアを立ち上げたら、CONNECT ボタンをクリックしてペダルが認識されるのを待ちます。ソフトウェアを使うと、ペダル本体よりもプリセットを細かく調節できます…そして、リアルタイムで作った完全なオリジナル・サウンドを 12 種類まで保存できるのです。Markbass ペダル・コントロール・ソフトウェアが将来アップデートされた際には、www.markbass.it のウェブサイトから無料でダウンロードしていただけるようにする予定ですので、楽しみにしてください！

SUPER SYNTH ペダルの機能は少々複雑ですが、Markbass 社はできるだけシンプルで使いやすいユーザー・インターフェイスをデザインするように心がけました。

■ソフトウェア動作環境

Macintosh：

- Intel Core Solo 1.5GHz または PowerPC G4 866MHz 以上のプロセッサを搭載したコンピュータ
- Mac OS X 10.4.9 あるいはそれ以降のオペレーティング・システム
- 512MB 以上の搭載 RAM
- 20MB 以上の空き容量のあるハードディスク
- 画面解像度 1024 × 768 以上のディスプレイ
- CD-ROM ドライブ
- USB ポート

Windows：

- Pentium III 1GHz または Athlon XP 1GHz 以上のプロセッサを搭載したコンピュータ
- Windows XP あるいはそれ以降のオペレーティング・システム
- 512MB 以上の搭載 RAM
- 20MB 以上の空き容量のあるハードディスク
- 画面解像度 1024 × 768 以上のディスプレイ
- CD-ROM ドライブ
- USB ポート

MODE：このスウィッチで、Synth と Octaver モードを切り替えます（ペダル本体の SYNTH/OCTAVER と同じ機能です）。

Synth モード：

Cutoff：シンセのフィルター効果のカットオフ周波数を調節します。

Level：シンセ音の出力レベルを調節します。

Tone：このコントローラーで、工場出荷状態の 7 種類のプリセットを選択します。それぞれのプリセットでは、3 つのオシレーター（Oscillator）の Detune、Amp、Pan のパラメーターの組み合わせが異なります。これらのプリセットについては、Dynamics の設定は変更できますが、オシレーターのパラメーターは変更できません。SUPER SYNTH のパラメーターは、Dynamics と Oscillators の 2 つのページに分かれており、1 個のユーザー・プリセットについては、Dynamics と Oscillators の両方のパラメーターが変更できます。

Dynamics ページ：

Note Dynamics セクション：

Note ON Level: シンセ音をトリガーする（シンセ音をオンにする）原音のレベルを調節します。値を大きくすると、シンセ音をトリガーするために楽器をより強く弾く必要があります。

Note OFF Level：シンセ音がオフになる原音のレベルを調節します。シンセ音は次第に減衰し、あるポイントで音が消えて楽器の原音だけが残りますが、シンセ音がオフになる原音のレベルをこのパラメーターで設定します。

Amp Dynamic：シンセ音が原音のダイナミクスに追従する割合を調節します。

Filter Dynamic：原音がフィルターのカットオフ周波数を持ち上げる量を調節します。

Filter And Mix セクション：
Cutoff：シンセ音の高音をカットする周波数ポイントを調節します。周波数ポイントは原音の音量や、Filter Dynamic と Envelope の設定の影響を受けます。

Resonance：シンセのフィルターのレゾナンスを調節します。

Level：シンセ音の出力レベルを調節します。

Mix：原音とシンセ音のミックス・バランスを調節します。

Envelope Control セクション：
Attack：シンセ音のアタック・タイムを調節します。

Release：エンベロープのリリース・タイムを調節します。

Portamento：順に弾かれた 2 つの音のつながり具合を調節します。

Envelope：エンベロープ・ジェネレーターがフィルターのカットオフ周波数に影響する度合いを調節します。

Oscillators ページ
Oscillator1/ Oscillator2/ Oscillator3：
Detune：オシレーターのピッチをずらす量を、半音単位で調節します。

Detune Fine：ピッチをずらす量を、より細かいセント単位で調節します。

Amp：オシレーターの音量を調節します。

Pan：オシレーター出力の左右のバランスを調節します。

Octaver モード：
Octave +1：原音より 1 オクターブ高い音の音量を調節します。

Octave -1：原音より 1 オクターブ低い音の音量を調節します。

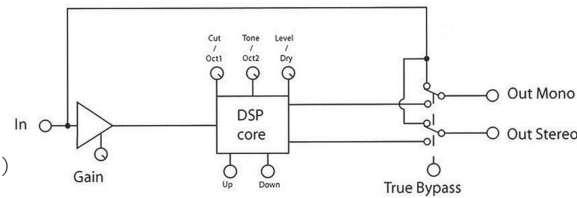
Octave -2：原音より 2 オクターブ低い音の音量を調節します。

Dry：原音の音量を調節します。

6. 仕様

入力ジャック 1/4 インチ標準
入力インピーダンス 200k Ω
出力ジャック 1/4 インチ標準×2 (モノ L、ステレオ L+R)
プリセット数 12 (ユーザーによる変更可能)
ゲイン -10 ~ +16dB
カットオフ周波数 70Hz ~ 1.4kHz
トーン・プリセット ファクトリー・プリセット 7 (プリセット 1 ~ 7)
およびユーザー・プリセット 1 (プリセット 8)
電源電圧 +12V DC、550mA 以上
寸法 166 × 142 × 53mm
重量 716g

7. ブロック・ダイアグラム



コントローラー説明書

Markbass Pedal Controller

ソフトウェア使用に関する取り決め

Markbass Pedal Controller ソフトウェアに関する全ての知的財産は、Parsek srl (企業活動は Markbass 名義) およびその納入業者に帰属するものとします。Parsek srl は、ソフトウェアをお客様のコンピュータにインストールする前に、ライセンス使用に関する契約事項にご同意いただいた場合にのみ、本ソフトウェアのコピー、ダウンロード、インストールおよび使用を許可いたします。

本ソフトウェアと、お客様ご自身によるその複製は、Parsek srl (以下 Parsek) およびその納入業者の知的財産です。ソフトウェアの内容や構成、コードには Parsek およびその納入業者にとって重要な企業秘密が含まれます。本ソフトウェアは法律、とりわけイタリアおよびその他の国々における著作権法並びに国際条約によって法的に保護されています。

■ソフトウェア動作環境

Macintosh：

- Intel Core Solo 1.5GHz または PowerPC G4 866MHz 以上のプロセッサを搭載したコンピュータ
- Mac OS X 10.4.9 あるいはそれ以降のオペレーティング・システム
- 512MB 以上の搭載 RAM
- 20MB 以上の空き容量のあるハードディスク
- 画面解像度 1024 × 768 以上のディスプレイ
- CD-ROM ドライブ
- USB ポート

Windows：

- Pentium III 1GHz または Athlon XP 1GHz 以上のプロセッサを搭載したコンピュータ
- Windows XP あるいはそれ以降のオペレーティング・システム
- 512MB 以上の搭載 RAM
- 20MB 以上の空き容量のあるハードディスク
- 画面解像度 1024 × 768 以上のディスプレイ
- CD-ROM ドライブ
- USB ポート

1. 概要

Macintosh および Windows 用 Markbass Pedal Controller ソフトウェアを使うと、Markbass デジタル・エフェクト・ペダルのパラメーターをより高度にカスタマイズできます。Markbass Pedal Controller の使用にあたっては、Markbass デジタル・エフェクト・ペダルと標準的な USB ケーブル、および Apple Macintosh または Windows コンピューターが必要です。

2. ユーザー・インターフェース

ユーザー・インターフェースは、ヘッダ、プリセット・ファイル (PRESET FILES) パラメーター (PARAMETERS) そしてコネクション・ステータス・バーの 4 つの部分に分かれています。

ヘッダ①：プログラム・ウィンドウの右上、Markbass ウェブサイト (www.markbass.it) へのリンク・ボタンの真下に About ボタンがあり、クリックするとインストールしたソフトウェアのバージョンが確認できます。

PRESET FILES ②：プログラム・ウィンドウ左側の PRESET FILES エリアには、コンピューターのハードディスクに保存されたプリセット・ファイルの一覧が表示されます。

PARAMETERS ③：PARAMETER エリアには、エフェクターのパラメーターの高度なエディットのためのコントロールが全て表示されます。

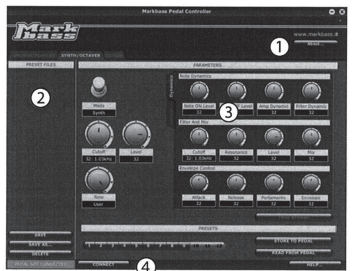
コネクション・ステータス・バー④：コネクション・ステータス・バーには、エフェクト・ペダルとの接続状況と、エフェクト・ペダルとコンピューターの接続の開始および停止のためのボタンが表示されます。

3. 接続

Markbass Pedal Controller ソフトウェアがコンピューターに正しくインストールされれば、Markbass デジタル・エフェクト・ペダルと通信できるようになります。

Macintosh システムの場合：

標準的な USB ケーブルで、コンピューターにペダルを接続します。Markbass Pedal Controller を立ち上げ (ソフトウェアのアイ



コンは、アプリケーション・フォルダの中にあります)、メイン・ウィンドウの左下にある CONNECT ボタンをクリックして数秒間待ちます。

Windows システムの場合:

標準的な USB ケーブルで、コンピュータにペダルを接続します。Markbass Pedal Controller を立ち上げ (ソフトウェアのアイコンは、スタート・メニューの Markbass フォルダの中にあります)、メイン・ウィンドウの左下にある CONNECT ボタンをクリックして数秒間待ちます。

ペダルとの接続が完了すると、コンピュータはペダルに保存された設定を読みに行きます。スクリーン上のノブやカーソルの位置には、接続が完了した時点でペダル内に呼び出されていた設定が自動的に反映されます。

この時点から、プログラムのインターフェース上で行うパラメーターの変更はすべて、ペダルのエフェクトに直接影響を及ぼします。つまり、パラメーターの変更をリアルタイムで確認できるわけです。ベースを弾きながらソフトウェアの設定をいじってみて、幅広い種類のサウンドが得られることを実感してみてください。気に入った設定やサウンドが見つかったら、それを保存して、好きな時にいつでも必要な時に——呼び出してください。

4. パラメーターの調節

ソフトウェアでパラメーターを調節するために、スイッチとノブの 2 種類のコントローラーが用意されています。

スイッチ (Mode):

この Mode スwitch で、エフェクターの “Synth” モードと “Octaver” モードを切り替えます。スイッチにマウス・カーソルを合わせてクリックすると、モードが切り替わります。

ノブ (Cutoff、Level、Tone、Dynamics および Oscillators コントロール):

ノブの設定を “上げる” 時には、ポットにマウス・カーソルを合わせてクリック・ボタンを押したまま、マウスを自分から離れる方向にスライドさせます。設定を “下げる” 時には、マウスを手前に引き寄せます。

Synth モード:

Cutoff: シンセのフィルター効果のカットオフ周波数を調節します。

Level: シンセ音の出力レベルを調節します。

Tone: このコントローラーで、工場出荷状態の 7 種類のプリセットを選択します。それぞれのプリセットでは、3 つのオシレーター (Oscillator) の Detune、Amp、Pan のパラメーターの組み合わせが異なっているので、Tone ノブを回すと、生成されるシンセのサウンドが変化します。ノブを最大値まで (時計方向に) 回しきると、Oscillator ページでユーザーがプログラムした Detune、Amp、Pan のパラメーターの設定が呼び出されます。

Dynamics ページ:

Note Dynamics セクション:

Note ON Level: シンセ音をトリガーする (シンセ音をオンにする) 原音のレベルを調節します。値を大きくすると、シンセ音をトリガーするために楽器をより強く弾く必要があります。

Note OFF Level: シンセ音がオフになる原音のレベルを調節します。シンセ音は次第に減衰し、あるポイントで音が消えて楽器の原音だけが残りますが、シンセ音がオフになる原音のレベルをこのパラメーターで設定します。

Amp Dynamic: シンセ音が原音のダイナミクスに追従する割合を調節します。

Filter Dynamic: 原音がフィルターのカットオフ周波数を持ち上げる量を調節します。

Filter And Mix セクション:

Cutoff: シンセ音の高音をカットする周波数ポイントを調節します。周波数ポイントは原音の音量や、Filter Dynamic と Envelope の設定の影響を受けます。

Resonance: シンセのフィルターのレゾナンスを調節します。

Level: シンセ音の出力レベルを調節します。

Mix: 原音とシンセ音のミックス・バランスを調節します。

Envelope Control セクション:

Attack: シンセ音のアタック・タイムを調節します。

Release: エンベロープのリリース・タイムを調節します。

Portamento: 順に弾かれた 2 つの音のつながり具合を調節します。

Envelope: エンベロープ・ジェネレーターがフィルターのカットオフ周波数に影響する度合いを調節します。

Oscillators ページ

Oscillator1/ Oscillator2/ Oscillator3:

注意: このページには、Tone ノブを最大値 (User のポジション) まで回しきった時にだけアクセスできます。

Detune: オシレーターのピッチをずらす量を、半音単位で調節します。

Detune Fine: ピッチをずらす量を、より細かいセント単位で調節します。

Amp: オシレーターの音量を調節します。

Pan: オシレーター出力の左右のバランスを調節します。

Octaver モード:

Octave +1: 原音より 1 オクターブ高い音の音量を調節します。

Octave -1: 原音より 1 オクターブ低い音の音量を調節します。

Octave -2: 原音より 2 オクターブ低い音の音量を調節します。

Dry: 原音の音量を調節します。

5. プリセット保存エリア

このプログラムは、異なるプリセット保存エリアの管理も行います。

1. コンピューターに保存されたプリセット

a. 12 種類の “待機中の” プリセット。ペダルに保存するプリセットは、事前にこの領域に保存しておく必要があります。READ FROM PEDAL 機能を使用してペダル内から読み出したプリセットが保存されるのも、この領域です。

b. ソフトウェアを使うと、(12 種類の “待機中の” プリセットや、ペダルに保存してある 12 種類のプリセット以外に) さらに多くのプリセット・ファイルを無制限に作成・保存できます。これらのファイルは、SAVE あるいは SAVE AS… ボタンをクリックすると、コンピュータのハードディスク上に保存され、ソフトウェアのウィンドウ内の左側にある、PRESET FILES バーの下に表示されます。特定の曲で特定のプリセットを使用する場合には、プリセットに曲のタイトルと同じ名前を付けることもできます!

2. ペダルに保存されたプリセット

a. 12 種類の “稼働中の” プリセット。通常はペダル単体で使用されますが、ペダルとソフトウェアを組み合わせれば上書きもできます。ソフトウェアでこれらのプリセットを選択してペダルに保存してしまえば、あとはコンピュータがなくてもペダルの UP と DOWN のスイッチで呼び出すことができます。

b. 12 種類の “初期状態の” プリセット。すぐに使用できるように、工場出荷時に保存されたプリセットです。これらのプリセットは、ペダルをイニシャライズすることによっていつでも復元できます。イニシャライズは、BYPASS スwitch を押しながらペダルを電源に接続し、そのまま数秒間押し続けるだけで完了します。これらのプリセットはユーザーによる変更はできません。当然のことながら、初期状態のプリセットを復元すると、あなたが作成してペダル内に保存していたプリセットは上書きされます。

6. プリセットの保存

気に入ったサウンドが出来てプリセットを保存する場合にはいつでも、プリセット・ファイルとしてハードディスクに保存するか、“待機中の” プリセットとしてプログラム内に保存するか、あるいはペダル内のプリセットの 1 つとして保存するかが選択できます。

1. プリセット・ファイルとして保存する場合

SAVE ボタン (既存のファイルに変更を加えた場合) あるいは SAVE AS… ボタン (新たなファイルを作る場合、または既存のファイルに変更を加え、元のファイルを残したまま新たなファイルとして保存する場合) をクリックして、プリセットに名前を付けます。プリセット・ファイルはハードディスクに保存され、ソフトウェア・ウィンドウの左側にある PRESET FILES のリストに表示されます。リストに表示されたファイルはどれでも、名前をダブル・クリックするだけですぐに呼び出され、それに従ってパラメーターが変化するのがわかりになるはずです。

ハードディスクに保存されたこれらのプリセットのいずれかをペダルにロードする場合は、ファイル名をダブル・クリックして目的のプリセットを呼び出し、以下に述べる第 2、第 3 の手順のとおり to 操作を行ってください。

2. プログラム内の “待機中の” 領域に保存する場合

ソフトウェア・ウィンドウの下にある 1 ~ 12 までのボタンの 1 個にマウス・カーソルを合わせ、クリック・ボタンを押したままにします。すると、ボタンは何度か点滅して青色に変わり、現在の設定が選択された待機中のメモリー領域のひとつに保存されたことを示します。次回ソフトウェアを立ち上げた時には、コンピュータを再起動した後であっても、待機中のメモリー領域は変更されず、以前と同じ状態に再現されます。待機中のメモリー領域のひとつに保存したプリセットが、同じ領域にあった以前のプリセットに上書きされている点に注意してください。